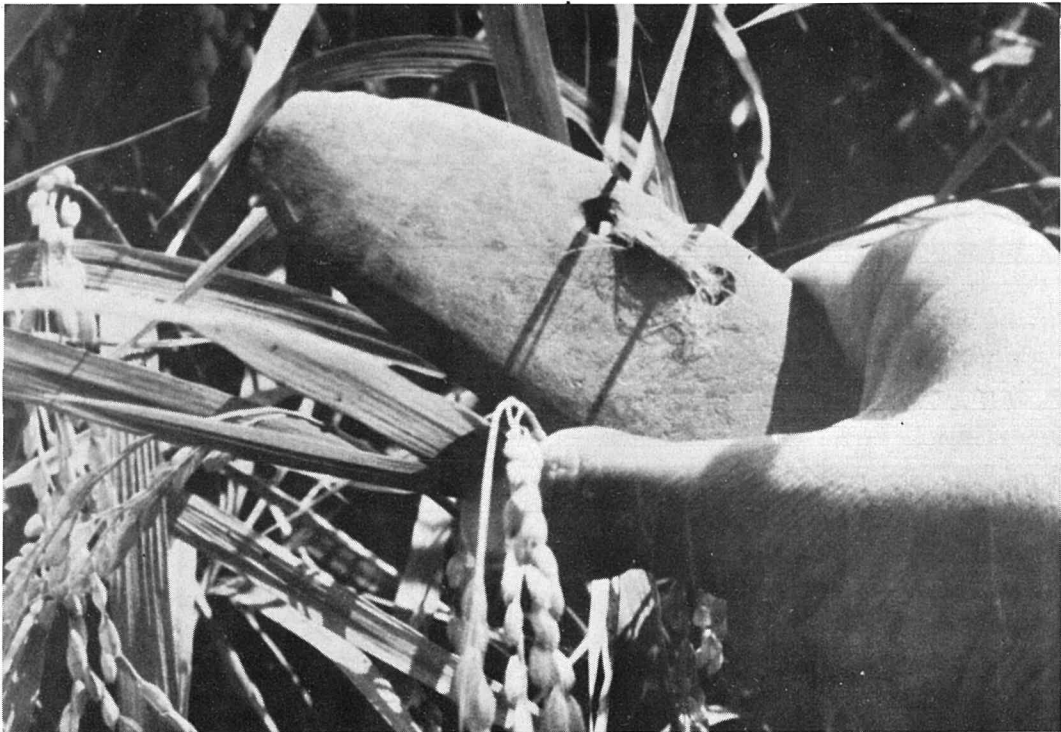


民俗博物館だより

Vol. IX No.4

1983. 3. 25



▲石包丁の復原使用

目 次

「吉野の山村生産用具」の県指定によせて	1
年占 —左義長と粥節供との関連性から—	3
昭和57年度事業報告	6
寄贈民俗資料分類目録	8
副業としての蒺織について(民俗資料調査抄報①9)	15
お知らせ・他	15

「吉野の山村生産用具」の県指定によせて 浦西 勉

(1) 吉野の山村生産用具の意義

紀ノ川上流の通称吉野川流域（西吉野村・下市町・大淀町・黒滝村・吉野町・川上村・東吉野村）、新宮川水系北山川流域（下北山村・上北山村）および新宮川水系新宮川本川（十津川）流域（十津川村・大塔村・野迫川村・天川村）は古い林業の歴史を持っている。天川村においては明応九年（1500）、大永二年（1522）の年号のある杉山売買文書が残されているし、上北山村では江戸初期寛永六年（1629）の山林保護のための禁制文書が残っている。また、吉野川上流の黒滝村・川上村両村は、近世初頭から吉野川を流す木材に対して、税を徴収することを徳川幕府から許されていた（口役銀制度）。このことはすでに組織的に木材を伐り、それを水運により搬出したことを示すものである。また当然、伐採した後、植林し育成する人工造林（林業）が発達したのである。『吉野林業全書』（明治31年刊）にはその植林の最初は文亀年間（1501～1503）の川上郷で、その他の地域でも元禄年間（1688～1703）までにすでに植林が行われたと記している。このことは明治頃に残っていた最も古い造林地の樹齢からも知ることができる。このように、吉野地方において早くから人工造林による林業が盛んであった。わが国においては、人工造林の古さでは吉野地方は、木曾地方・秋田地方と並び代表的な地域なのである。

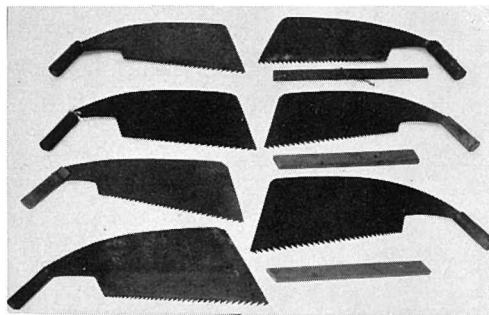
このように、吉野林業は近世初頭から始まっており、その歴史はすでに350年の永きにおよんでいる。この地方に住む人々は、この吉野林業を永きにわたりささえてきたのであり、私達は吉野地方を語る時、まず吉野林業の歴史をとりあげねばならないだろう。

だが、吉野林業を語る文献は決して多くはない。特に、吉野林業をささえた人々の歴史（山樵技術の歴史や木工の歴史）を知り得る記録はほとんど無いと言って良い。とすれば、この地方を語るには、今日まで残された遺品（民具）や伝承によってしか知り得ないので

はないか。このような意味から、収集されたこの地方の山村生産用具は意義のあるものと信じている。多くの吉野林業にたずさわった人々から当館に今日まで残された遺品（民具）が寄贈され、1226点にも達した。吉野の山村生産の民具から吉野地方、また吉野の人々についてさまざまなことを語ってくれる、大変良いコレクションになると思う。

(2) 吉野の山村生産用具

当館に集まった吉野の山村生産用具を大別すると次の通りである。



▲ 木挽用具（コビキノコ）



▲ 経木製作用具

1. 山樵用具	これは植林、伐採、搬出などに使った用具。
2. 木工用具	吉野地方での産する木材を、加工した職人達の用具。
3. 漆用具	添掻きおよび塗師の用具。

点数や小分類は別表を参照していただきたい。また、スペースの都合でそれぞれの資料についての詳細な説明は別の機会にゆずることとする。

なお、吉野の山村生産用具は県指定有形民俗文化財の指定記念展として、同名称で、昭

和58年4月7日から9月11日まで当館にて展示公開する予定である。

(3) 今後の課題

資料は多ければ多いにこしたことはない。今後とも吉野地方の人々の協力を得てこのコレクションを豊かにしてゆかねばならないと思う。また、今後これらのコレクションによって吉野地方を研究し、地域の良き精神的さえにしなければならないだろう。

注① 『天川村史』 132ページ

② 『上北山村の歴史』 125ページ

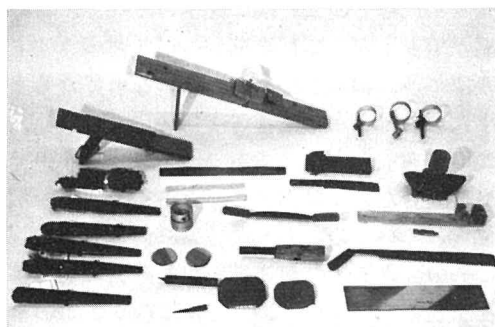
③ 「吉野・熊野の林業」(『日本産業史大系6 近畿地方編』所収) 247ページ

奈良県指定有形民俗文化財「吉野の山村生産用具」収集町村別一覧表

大分類	小分類	吉野町	大淀町	下市町	黒滝村	西吉野村	天川村	野添川村	大塔村	十津川村	下北山村	上北山村	川上村	東吉野村	計
1 山樵関係	(1) 樵用具														
	(a) 伐採用具	2	0	1	3	0	10	5	4	16	1	3	11	3	59
	(b) ハツリ用具	0	0	1	1	2	1	3	1	3	2	0	2	0	16
	(2) 木挽用具	0	1	1	2	4	7	3	4	4	1	2	4	0	33
	(3) 搬出用具	2	0	11	6	5	17	15	4	87	7	3	55	13	225
2 木工関係	(4) 植林用具	1	0	4	7	0	0	0	0	11	0	1	4	1	29
	(5) その他	4	2	18	36	11	8	5	0	22	6	40	26	4	182
	(1) タルマル製作用具	0	5	4	18	0	6	0	5	12	3	1	0	0	54
	(2) 桶製作用具	0	0	81	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	84
	(3) 木地製作用具														
	(a) 椀・盆	189	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	190
	(b) シャクシ	0	0	4	1	0	29	13	43	0	0	1	0	0	91
	(a) シャク	0	0	4	0	0	71	0	0	20	0	0	0	0	95
	(4) 曲物製作用具														
	(b) ヤロウ	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	40
3 漆関係	(c) 三方	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
	(5) 箸製作用具	0	0	15	0	0	0	25	0	0	0	1	0	0	41
	(6) 経木製作用具	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	45
	(1) 漆かき用具	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
計	(2) 漆塗用具	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		198	8	180	74	29	149	114	61	215	22	53	102	21	1226



▲ 樵用具 (ハツリヨキ)



▲ シャコ (柄杓子) 製作用具

年 占 — 左義長と粥節供との関連性から — 奥 野 義 雄

大和の各地では、現代も正月に年占を行なっているムラがあり、その年の農作物の豊凶を占う神事や仏事がみられる。

たとえば、大和郡山市矢田町の矢田坐久志玉比古神社や奈良市富雄中町の登弥神社の粥占神事も年占として周知されている。

また、今日では伝承のみになってしまったが、奈良市押熊町の年越し、すなわち節分の日に豆を煎り、盆で蓋をして、この盆のシメリ具合いで、その年の農作物の豊凶を占う年占もあった。これらの年占については、すでに「予祝儀礼としての年占と結鎮祭」（『民俗博物館だより』第6巻3号）で呪術的要素を示すことを触れたので、ここでは詳しく述べないことにする。

このように大和・奈良県にもいくつかの年占がみられるが、大和以外の各地方の年占をここで紹介し、年占に共通する基盤を窺うことにしたい。ただ、この基盤となるものが〈農耕〉であることはいまでもないが、この農耕を土台としたそのものの上に構築された農村落の人々と神仏とのかかわり方をみることにある。

* * *

まず、はじめに石川県・辰口町の年占の様子を垣間見ることにしよう。

この辰口町のムラでは、1月15日の左義長の日に、古くから農作物の豊凶を決める綱引きの行事が行なわれてきたのである。

この日の昼過ぎてから（午後3時頃）、村中の藁を集めて綱をなうのである。直径5寸、長さ50尺ほどの太い綱に仕上げていく。この綱が編み上がって、夕刻から綱を村のカイドの道へ運ぶ準備を行ない、夜になってから上手に若者（若衆）、下手に女・子供が相対して、この綱を引き合うのである。この綱引きの結果、勝った方が豊作になると古くからいい伝えられているのである。

一方、さきに奈良市押熊町の節分の豆で年占を行っていたことに触れたが、この事例と同じ様相の民俗例として、福井県・金津

町のムラで節分の日に年占が行なわれているのである。この年占は、この村では「粥占」といわれている。

毎年、その年の豊作物の豊凶を占う方法とは、節分の豆を煎るとき、豆の上にオキ（焚火の灰や木炭の上にできた白い灰のこと）をのせて、その焦げ具合をみて占う仕方である。

この節分すなわち年越しの日やトンドつまり左義長の日に行なわれる年占の民俗事例を2つ挙げてきたが、この1月15日のトンドあるいは左義長、さらに火祭というように各地方によって行事の名称が異なる反面、行事内容は雑把にいうと同じ様相を呈するといえる。ただ、和歌山県・日高町のムラのトンドすなわち「火祭り」は、村人（大人）が中心となった正月の最大の行事であった。そして、新しい年の聖火を祭ることが主な目的であり、この火のもつ威力が年頭祝いや厄払い、さらに年占に使われたということである。この年占に関しては、さきの2例と若干異なる。また、相違した事例としては、同じく和歌山県・岩出町のムラで行なわれている1月15日の小豆粥を果樹に供えと、その年の果物が豊熟するといういい伝えがある。これも一種の年占になるかもしれない。

この小豆粥の供え方も興味を引くので、ここで挙げると、

二人が畑に出かけて、内一人が鉈で木の幹をたたきながら、「ナラナキロ」と大声で呼ぶと、もう一人がこれに答えて「ナリマショウ」と大声で返答して、その木に小豆粥を供えて祝う。

という二人の掛け合いによって祝い事を行ない、果物の豊作を願うのである。

このように大和および各地方の年占の民俗例を窺ってきたが、1月15日のトンドあるいは左義長と関連する年占があることを知る。そして、この左義長と粥との関係も興味をひくが、まず1月15日と年占とのかかわりが古くからあったのか、否かについて若干史料を

緋いて触れてみることにしたい。

* * *

まず、平安時代の史料から室町時代の史料のいくつかを緋きながら検討していくことにしよう。

『中右記』の大治二(1127)年正月十五日の条をみると、「從暁更雨脚殊甚、臨未刻雨止、殿下給御消息云、來十七日可被行除目」云々とあるが、関連する記載はない(『増補史料大成』13所収)。同様に同記の長承四(1135)年一月十五日の条においても「有僧事」という記述に関するものであった。

この時代には左義長の行事は正月十五日に行なわれていなかったのかもしれない。

そして、13世紀に入るが、『公衡公記』の弘安十一(1288)年正月十五日の条をみると、「主水司獻七種御粥」という文句があるが、関連する行事であったか、否かは詳かではない(『史料纂集』所収)。

しかしながら、14世紀に入ると、次のような文言がみえるのである。すなわち、『師守記』の康永三(1344)年正月十五日の条に、

今日粥如例、參家君御前有勸盃、幸甚々々
立春朝也、

とあり、粥をこの十五日に食べたことが窺える(傍点一奥野、以下同様にて、省略)。同様にして、同『記』の貞和三(1347)年正月十五日の条にも、

天晴、今日粥如例、於予方勸盃有之、幸甚々々、

今日殿下粥御節供事、先々被宛家君、然而被申子細了、

とあり(『史料纂集』所収)。正月十五日と「粥」すなわち「粥節供」との関連が見出し得る。だが、左義長や年占とのかかわりは、史料

をみる限りにおいて、皆無に近いほどである。

ただ15世紀に入ると管見の史料から「粥」と「サキウチャウ」(左義長)とのかかわりを知ることができるのである。すなわち、『經覺私要鈔』の康正二(1456)年正月十五日の条に次のような記述がある。

粥等如例、手長如意賀、予着藝衣祝着了、
一古市粥一鉢・久喜等給之、仰祝着之由了、
一出高縁サキウチャウ見物之、予與也、如
一意賀・古市兄弟召具了、有一獻三獻也、
とあるのがそれで、例のごとく「粥」つまり粥節供があり、經覺自身も高縁に出て左義長を見物したことが窺えるのである。

また、この經覺大僧正と同時期の尋尊大僧正の日次記である『大乘院寺社雜事記』の寛正三(1462)年正月十五日の条をみると、「御粥御後見調進、予・手長・役人等付衣」と記載されているのみで、粥節供と左義長との関連を示唆する記載はない。この同『雜事記』をみるかぎり、寛正六(1465)年正月十五日の条の「朝飯之次御粥進之、二色、予付衣、役人同、手長依風氣不參」という記述や、文明十(1478)年正月十五日の条の「粥手長榮菊丸、役人親舜、付衣如例也」という文言があるが、十五日における両者のかかわりについては窺えない。

だが、同『雜事記』の長享三(1489)年二月八日の条の

一去十四日夜傳言今在所公事出來、其後日象中進發、又一昨日、帳本者佐川披官人也、進發了、三キウ丁足切事云云、

という記載で「三キウ丁」=左義長の存在を知ることができるが、その期日については明らかでない。

一方、16世紀になると、『多聞院日記』の



▲トンド(大和郡山市矢田町)



▲トンドづくりの光景(橿原市大久保)

永禄十（1567）年正月十五日^{（節）}の条をみると「花林院サキチャウ近年無之、當年在之」とあり、また、永禄十二（1569）年正月十五日の条に、一散鬼打、天氣快然、珍重々々、粥御祝義坊々早旦出了

とみえて、左義長と粥節供についての記載が窺えるのである。

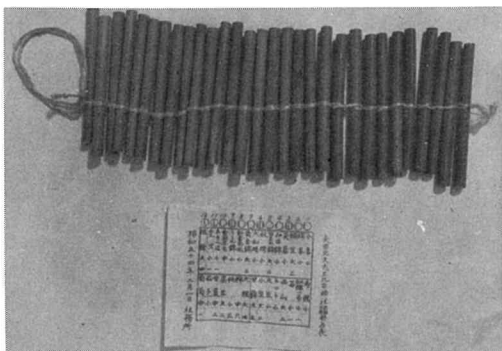
そして、このようなかかわりは、同『日記』に散見するとともに、元亀二（1571）年正月十五日の条にみえるごとく五穀豊穡とのかかわりが生じてくることを示唆しているようである。すなわち、

天氣快然、散鬼打如例、

月十三鐘之時分二御入、先月大ノ間可餘之



▲トンド（橿原市光陽町）



▲粥占神事の竹筒と暦



▲粥占神事（矢田坐久志玉比古神社）

處如此、五穀成就珍重々々、赤粥祝義如常、森岡入道礼ニ來了、不見參、

とあり、十五日には「散鬼打」すなわち左義長が行なわれたこと、この行事が「五穀成就」を祈願したものであったこと、さらに「赤粥」つまり小豆粥が「如常」に行なわれたことが理解できるとともに、この時期に五穀豊穡の民俗行事と結びつく「散鬼打」が生起し、この日に粥節供が行なわれることが日常生活のパターンとして定着していたであろうことを知る。

しかし、民俗事例である＜年占＞がいつ頃醸成してきたかは詳かでない。ただ、推察し得ることは、すでにみた「五穀成就」云々という文言から、農耕儀礼とかかわりを示す左義長や粥節供の行事の中へ、マジカルな要素を付帯させていく観念が生まれ、そしてこれらの行事が民衆の日常生活に溶け込むにしたがって、民衆の側から創り出した呪術的なものとなっていくのではないか、ということを考えざるを得ないであろう。

だが、正年十五日の行事として室町時代以来行なわれてきた左義長や粥節供は、現代まで悠久の歳月を経ながらも大筋においては変化はないといえよう。この大筋に各地域の社会的要求によって付随してきたものが、「年占」の民俗的在り方ではあるまいか。

大雑把ではあるが、このように「年占」については明確さを欠くが、左義長や粥節供を捉えることができ、＜年占＞・＜左義長＞・＜粥節供＞の三要素を正月十五日にみられる文化的側面から究明することによって、年占や左義長そして粥節供の本来的な意図するものが明確にし得るのではないかと考えるとともに、そこに一つの課題があるといえよう。この問題の提起をもって結びとしたい。

（1983. 2. 24了）

昭和57年度事業報告 (昭和57年4月から 昭和58年3月まで) 稲葉 安正

昨年4月に民俗博物館に勤務してからもうすぐに1年を迎えようとしている。

民俗学という聞きなれない言葉も今日此の頃ではいつしか親しめる様になり、館長以下全職員に支えられながら早く追いつき、曲りなりにも民俗学の一端でも理解出来ればと毎日努力をしているところである。

当館も昭和49年11月に開館して以来、来年度で丁度10年目を迎えることになる。館として今後は有形民具或いは、無形の芸能伝承資料の収集、情報交換などの中核的な所謂センターとしての機能と発展をめざして新たな意欲に燃えている。

さて昭和57年度の事業報告として特筆すべき事は、旧木村家住宅の復原工事があげられる。旧木村家住宅は文政4(1821)年に十津川村旭地区に建設された十津川地域の代表的な住宅で、昭和50年1月に関西電力の御厚意により寄贈を受け、かつ解体移転の労を煩わした次第であり、ようやく復原の運びとなった。

これで当初からの念願であった15戸建設予定の民家の内、吉野集落への十津川民家の建設がようやく実ることになった。また、次にいまではほとんど使われなくなった山の生産用具1,226点が『有形民俗文化財』として県指定するようこのほど県文化財保護審議会から県教育委員会に答申され、当館所蔵の民俗文化財が一躍脚光を浴びることになった。

ひるがえって今年度は特に報道関係によるPRが再三に涉っておこなわれ、いやがうえにも当館の存在と認識が高められ、体験学習においては、県外等からの申込が多数見受けられた。例えば7月末に実施した「初歩のはたおり」では定員の約3倍強におよぶ申込があり、やむなく抽選会を経て40名の受講者を選定し盛会裡に体験学習を終えることができた。

一方展示場の「藁と生活」・「農具—農具にみる先人の知恵—」のテーマー展は共に農業と関連のある催しもので、農業と生活のかかわりを、又農耕をおこなうための農具から見

た稲作の文化をそれぞれ感じ取ってもらった。

特別テーマー展「奉懸絵馬と村のくらし」では、昨年に引き続き絵馬を主題として奉懸絵馬と村全体の生活とのかかわり合いから更に祈願、信仰から神仏に奉納すべき踊りや相撲をはじめ、芸能的要素をもったものへと創造していったことを提示したが、今回も大へん好評であったと自負している。

次にもうすでに一般的に普及されてきた民俗カルチャー講座も今年度で第3回目を迎え、回を重ねる毎にますます内容が充実し、民俗学・考古学等の専門家を招聘しての講義をおこない、それぞれ民俗文化の一端を理解し、その文化の源流を探る機会が得られたと思う。

次に57年度公園用地の買収については今年度も5,900㎡余を買収し、全公園敷地の約70%が買収出来た。

また大和民俗公園の整備事業については本年度は公園東地域の園路広場修景施設の整備等をおこない除々にはあるが、公園の体裁が整ってきた。

最後に館への入館者は、年々増加の傾向にあり2月末で昨年3月末の観覧者を越える入館者があり、本年度末には相当の伸びがあるを期待している。

以上が昭和57年度事業の主なるものを拾い上げたが、詳細は次の通りである。

◀博物館事業▶

✧展 示

昭和57年4月8日から9月12日まで

テーマ展「日々のくらしシリーズ藁と生活」

昭和57年9月23日から11月11日まで

特別テーマ展「奉懸絵馬と村のくらし」

昭和57年11月21日から昭和58年3月27日まで

テーマ展「農具—農具にみる先人の知恵—」

✧速報展

昭和57年2月21日から6月19日まで

民俗文化財速報展「庚申講と六斎念仏講」

昭和57年6月20日から9月22日まで

民俗文化財速報展「町屋の民具」

昭和57年9月23日から12月18日まで

民俗文化財速報展「祈願・授与小絵馬」

昭和57年12月19日から昭和58年3月27日まで

民俗文化財速報展「膳と重箱」

❖移動展

昭和57年5月1日から5月29日まで

移動展「むかしの商用具」(南都銀行豊田)

昭和57年7月8日から7月27日まで

移動展「晴れの膳と普段の膳」(同上^{奈良県}張島)

昭和57年8月27日から9月10日まで

移動展「特別テーマ展」紹介(同上本店)

昭和57年10月2日から11月6日まで

移動展「収穫の民具」(同上^{豊田})

昭和58年2月15日から2月25日まで

移動展「テーマ展」紹介(同上本店)

昭和58年3月4日から3月6日まで

移動展(教育普及)「大和の民俗 生活の用具」
(生駒市中央公民館) 共催 生駒市教育委員会・生駒市中央公民館

❖民俗カルチャー講座(3年目)

民俗コースⅠ 昭和57年5月～6月(4回)

⁵⁷/₅ 陶・磁器の普及 巽淳一郎氏

₅/₀ 江戸時代の食べ物 岸田定雄氏

₆/₁₃ 中世の雑器を掘る 稲垣晋也氏

₇/₀ 木簡にみる古代の食べもの 鬼頭清明氏

民俗コースⅡ 昭和57年10月～11月(4回)

⁵⁷/₁₀ 念仏芸能と民俗 大森恵子氏

₁₀/₀ 南都寺院にみる庶民信仰資料 柴田実氏

₁₄/₀ 祖先崇拜にみる仏教と民衆 田中久夫氏

₁₆/₀ 仏教文化と民俗 五来重氏

民家コース 昭和58年2月～3月(3回)

⁵⁸/₂/₁₃ 古代の鎮壇修法を読む 森郁夫氏

₇/₀ 中・近世の鎮宅呪符を解く 水野正好氏

₁₃/₀ 近世民家にみる棟札と普請帳 吉田靖氏

❖体験学習講座

⁵⁷/₆/₆ 6月6日 チマキづくり

7月31日～8月1日 初歩のはたおり

9月26日 ナベツカミづくり

11月28日 シメナワづくり

⁵⁸/₁/₂₃ 1月23日 タコづくり

3月20日 ワラフゴづくり

❖民俗資料燻蒸

昭和58年3月27日から3月30日まで(予定)

❖印刷物

研究紀要 第7号

博物館だよりVol.ⅨNo.1～Vol.ⅨNo.4

特別テーマ展図録「奉懸絵馬と村のくらし」

博物館概要書(改訂版)

◀広報活動▶

❖テレビ・ラジオ

⁵⁷/₂/₀ 館藏品・民家取材(NHK12・教育番組「絵巻物の世界」)

₁/₀ 体験学習紹介(奈良TV放送・県政ウィークリー)

₈/₀ 民俗博物館・民家紹介(関西テレビ・奥さまリビング)

₁₈/₀ 民俗博物館・民家紹介(関西テレビ・近くへ行きたい)

₆/₀ 体験学習講座「初歩のはたおり」取材・放映(NHK奈良・近畿の話題)

₁₆/₀ 民俗博物館紹介(NHK大阪・ニュースワイド630)

₁₅/₀ 特別テーマ展紹介(奈良テレビ・県政ウィークリー)

⁵⁸/₁₂/₀ 民俗博物館・民家紹介(NHK奈良・ニュースワイド630)

◀日記抄・博物館実習▶

⁵⁷/₇/₂₁ 仏教大学博物館実習(見学)

₂₃/₀ 仏教大学博物館実習(見学)

₂₈～₉/₀ 駒沢大学博物館実習

₁₈/₀ 竜谷大学博物館実習(見学)

₁₃/₀ 大阪芸術大学博物館実習(見学)

₁₀/₀ 大谷女子大学博物館実習(見学)

₂₁/₀ 奈良大学博物館実習(見学)

₁₂/₀ 武蔵大学博物館実習(見学)

◀管理・運営▶

館長奥田 猛 施設係技師倉窪 孝

次長稲田安正 学芸係長奥野義雄

総務係長田中幸男 学芸主事大宮守人

主事西岡利男 〃 浦西 勉

〃 和田泰子 〃 徳田陽子

事務職員家城貴子 嘱託川島 享

建造物係長長谷川晋平

❖人事異動

〈転入〉⁵⁷/₄/₁ 4月1日付・次長 稲葉安正、

⁵⁸/₁/₅ 1月5日付・事務職員 家城貴子

〈転出〉⁵⁷/₄/₁ 4月1日付・次長 松井茂、12月26日付・事務職員 梅田佳代

❖民俗専門部会

池田源太(奈良教育大学名誉教授)、堀井甚一郎(奈良教育大学名誉教授)、平山敏治郎(成城大学教授)、岸田定雄(近畿民俗学会代表理事)、林 宏(八代学院大学教授)

❖民家専門部会

杉山信三(近畿大学教授)、岡田英男(奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長)、吉田靖(奈良国立文化財研究所建造物研究室長)、青山賢信(大阪工業大学教授)

❖昭和57年度予算(単位千円)

○民俗博物館運営費 108,990

○公園建設事業費 97,000

○公園管理事業費 6,215 合計 212,205

◀公園等整備事業▶

❖民 家

旧木村家住宅復原完成(昭和58年3月)

旧木村家住宅復原に伴う防災施設・環境整備(昭和58年3月)

❖公園整備 ※累計を示す

公園整備面積 ※約13ha

(次長)

寄贈民俗資料分類目録

(57年3月から
58年2月まで)

昭和57年3月より昭和58年2月に至る間、41名の方々から1,048点に及ぶ民俗資料を
ご寄贈いただきました。ご芳名を記し、厚く御礼申し上げます(順不同、敬称略)。

分類番号・調査番号	民俗資料名	数量	採集地	寄贈者氏名
■ 衣・食・住				
〔A〕服飾				
A-A	1928 下駄	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1929 ゾウリ	1	〃	〃
	1930 〃	1	〃	〃
	1944 傘	1	〃	〃
	1945 〃	1	〃	〃
	1946 〃	1	〃	〃
	1947 〃	1	〃	〃
	1948 〃	1	〃	〃
	1949 〃	1	〃	〃
	1950 〃	1	〃	〃
	1951 〃	1	〃	〃
	1952 〃	1	〃	〃
	1953 〃	1	〃	〃
	2084 ゾウリ	1	上牧町新町	今中伊一郎
	2085 ゴンゾウリ	1	〃	〃
	2086 ツノムスビゾウリ	1	〃	〃
	2203 ミノ	1	奈良市須川町	辻本 勇
	2280 カメノコ餅のオコシ	1	室生村下笠間	井上 富夫
	2342 天川バカマ	1	天川村洞川	橋田 閑
	2344 ゾウリ	1	〃	〃
A-B	1960 鏡	1	生駒市高山町	有山 忠俊
A-C	2237 キヌタウチ	1	奈良市宝来町	大西 一夫
〔B〕食事				
B-B	1976 桶	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1977 〃	1	〃	〃
	1978 〃	1	〃	〃
	1979 〃	1	〃	〃
	1981 壺	1	〃	〃
B-C	2022 カマ	1	〃	〃
B-D	1957 マナ板	1	〃	〃
	1972 サイト(大)	1	〃	〃
	1973 〃(小)	1	〃	〃
	1982 スリコギ棒	1	〃	〃
	1983 〃	1	〃	〃
B-E	1984 柿の皮ムキ	1	〃	〃
B-F	1975 ミソ桶	1	〃	〃
B-G	1980 茶壺	1	〃	〃
	2211 キセル掃除	1	奈良市須川町	辻本 勇
B-I	2179 ザル	1	田原本町小阪	藤本 佳伸
	2213 吉野膳	2	桜井市外山	玉井栄一郎
	2214 〃	2	〃	〃
	2215 〃	2	〃	〃
	2216 角膳	1	大和郡山市高田口町	平田甚一郎
	2217 丸膳	1	〃	〃
	2219 高膳	3	〃	〃
	2220 膳	10	〃	〃
	2221 茶碗	10	〃	〃
	2222 椀	10	〃	〃
	2223 〃	10	〃	〃
	2224 皿	10	〃	〃
	2279 椀	13	田原本町宮古	中島 正雄
〔C〕住居				
C-B	1938 火吹竹	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1939 足踏台	1	〃	〃
	2024 ランマの枠	1	〃	〃
	2025 サン	4	〃	〃
	2026 〃	4	〃	〃
	2248 火消壺	1	吉野町宮滝	船津弥之助
C-C	1965 蔵の鍵	1	生駒市高山町	有山 忠俊
C-D	1922 ランブ	1	〃	〃
	1923 〃	1	〃	〃
	1924 〃	1	〃	〃

	1925	ア ン ド ン	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1926	〃	1	〃	〃
	1927	下 駄 箱	1	〃	〃
	1932	燭 台	1	〃	〃
	1941	小 物 入	1	〃	〃
	1943	紙 ザ ブ ト ン	4	〃	〃
	1956	小 屏 風	1	〃	〃
C-D	1986	炭 入 レ	1	〃	〃
	2023	額	1	〃	〃
	2167	ヒ ジ カ ケ	1	奈良市西笹鉾町	森村 清司
	2175	コ タ ツ	1	田原本町小阪	藤本 佳伸
	2176	〃	1	〃	〃
	2190	イ コ ウ	1	奈良市須川町	辻本 勇
	2201	コ タ ツ	1	〃	〃
	2225	火 コ 鉢	1	大和郡山市高田口町	平田 甚一郎
C-E	2273	イ コ ウ	1	田原本町宮古	中島 正雄
	1961	枕	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1962	箱 枕	1	〃	〃
C-H	2166	ホ ウ キ	1	奈良市西笹鉾町	森村 清司
■ 生産生業					
〔D〕 農 耕					
D-A	2181	サ ラ カ ゴ	2	奈良市須川町	辻本 勇
	2182	ナ エ カ ゴ	2	〃	〃
	2187	田 植 縄	3	〃	〃
	2228	ナ ラ シ 棒	1	奈良市宝来町	大西 一夫
	2230	平 鋏	1	〃	〃
	2231	熊 手	1	〃	〃
	2232	土 ク ダ キ	1	〃	〃
	2234	三 本 鋏	1	〃	〃
	2235	麦の土カケ	1	〃	〃
D-B	1901	鎌	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1902	〃	1	〃	〃
	1903	〃	1	〃	〃
	1904	〃	1	〃	〃
	1905	〃	1	〃	〃
	1906	〃	1	〃	〃
	1968	ク サ カ ジ	1	〃	〃
	1969	ツチカブセ	1	〃	〃
	2183	草刈りカゴ	2	奈良市須川町	辻本 勇
	2184	草 取 り 機	1	〃	〃
	2185	〃	1	〃	〃
	2240	〃	1	奈良市宝来町	大西 一夫
	2241	〃	1	〃	〃
D-C	1907	鋸 鎌	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1908	〃	1	〃	〃
	1909	〃	1	〃	〃
	1910	〃	1	〃	〃
	1911	〃	1	〃	〃
	1912	〃	1	〃	〃
	1913	〃	1	〃	〃
	1940	ト オ シ	1	〃	〃
	1955	箕	1	〃	〃
	1970	千石トオシ	1	〃	〃
	1971	〃	1	〃	〃
	1991	籾 ス ク イ	1	〃	〃
	2081	モミトオシ	1	大和郡山市野垣内	堀部 忠雄
	2083	カ ラ サ オ	1	〃	〃
	2126	唐 箕	1	奈良市八条町	鞍田 ヒ フ ミ
	2186	籾 サ ラ シ	1	奈良市須川町	辻本 勇
	2188	稲 コ キ	1	〃	〃
	2189	万石トオシ	1	〃	〃
	2238	カ ラ サ オ	1	奈良市宝来町	大西 一夫
	2242	トオシの網	2	〃	〃
	2243	千歯扱キの歯	1	〃	〃
	2244	〃	1	〃	〃
	2247	カ ラ ウ ス	5	吉野町宮滝	船津 弥之助
	2281	カ マ ス	1	京都府相楽郡精華町	沢田 操
	2284	〃	1	〃	〃
	2282	俵	1	〃	〃
	2283	棧 俵	2	〃	〃
〔E〕 山 樵					
E-C	1966	ヨ キ	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	2296	コギリノコ	1	黒滝村中戸	福田 義一
	2297	〃	1	〃	〃
	2298	サキヤマノコ	1	〃	〃
	2299	〃	1	〃	〃

	2304	ノ コ ギ リ	1	天川村沖金	赤井 敏治
	2305	〃	1	〃	〃
	2306	〃	1	〃	〃
	2307	〃	1	〃	〃
	2308	〃	1	〃	〃
	2309	〃	1	十津川村大野	松葉 武夫
	2310	〃	1	大塔村篠原	西尾 勇夫
	2311	〃	1	〃	〃
	2314	〃	1	〃	〃
	2313	ヨ キ	1	〃	〃
	2315	コビキノコ	1	十津川村大野	松葉 武夫
	2316	コジクサビ	1	大塔村中原	中平 正太郎
	2317	〃	1	〃	〃
	2318	〃	1	十津川村高津	久保 辰夫
	2319	コビキノコのメタテ	1	十津川村谷瀬	森岡 良孝
	2320	コジクサビ	1	天川村塩野	佐古 作美
	2321	シントオシ	1	〃	〃
	2322	カ ス ガ イ	1	〃	〃
	2323	コビキ用ヤ	2	〃	〃
	2328	ヤ	2	〃	〃
	2387	サキヤマノコ	1	〃	〃
	2388	〃	1	〃	玉井 喜代若
	2390	ノ コ ギ リ	1	〃	〃
	2393	ス ミ ツ ボ	1	〃	〃
	2395	シ リ ア テ	1	〃	〃
	2398	ヨ キ	1	〃	〃
	2400	ト チ カ ン	1	〃	〃
	2401	〃	1	〃	〃
E-E	2324	ト ビ グ チ	1	〃	佐古 作美
	2325	カ ツ シ ヤ	11	〃	〃
〔F〕 漁 撈					
F-C	2177	イ ケ ス	1	田原本町小阪	藤本 佳伸
	2178	〃	1	〃	〃
〔H〕 養 蚕					
H-A	2029	カイコの台	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	2191	蚕 棚	1	奈良市須川町	辻本 勇勇
	2192	〃	1	〃	〃
	2208	蚕 台	15	〃	〃
〔I〕 畜 産					
I-A	2082	ウシのクラ	2	大和郡山市野垣内	堀部 忠雄
	2396	ウシのクツ	1	天川村塩野	玉井 喜代若
〔J〕 染 織					
J-B	1933	カ セ 車	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1985	シンコロクロ	1	〃	〃
	2193	ハ ヤ グ リ	1	奈良市須川町	辻本 勇
	2194	〃	1	〃	〃
	2195	〃	1	〃	〃
	2196	〃	1	〃	〃
	2197	ト リ イ	1	〃	〃
	2198	糸 車	1	〃	〃
	2199	〃	1	〃	〃
	2200	整 型 台	2	〃	〃
	2202	糸 枠	8	〃	〃
J-C	2027	木 綿 機	1	〃	〃
	2028	メ ハ ジ キ	1	〃	〃
〔K〕 手工・製造					
K-B	1992	カ ン ナ	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1993	〃	1	〃	〃
	1994	〃	1	〃	〃
	1995	〃	1	〃	〃
	1996	〃	1	〃	〃
	1997	〃	1	〃	〃
	1998	〃	1	〃	〃
	1999	〃	1	〃	〃
	2000	箸 ケ ズ リ	1	〃	〃
	2001	削 り 台	1	〃	〃
	2002	〃	1	〃	〃
	2003	〃	1	〃	〃
	2004	割 り 台	1	〃	〃
	2005	ス ミ ツ ボ	1	〃	〃
	2006	〃	1	〃	〃
	2007	三ツ目ギリ	1	〃	〃
	2008	〃	1	〃	〃
	2009	鋸	1	〃	〃
	2010	〃	1	〃	〃
	2011	用 具	1	〃	〃



2012	割 り 包 丁	1	生駒市高山町	有山 忠俊
2013	セ ン	1	〃	〃
2014	ツ チ	1	〃	〃
2015	カ ス ガ イ	1	〃	〃
2016	ノ ミ	1	〃	〃
2017	直 角 定 期	1	〃	〃
2018	〃	1	〃	〃
2019	用 具	1	〃	〃
2030	ヤロウの木型	1	十津川村谷瀬	森脇 光夫
2031	底板整形包丁	1	〃	〃
2032	コ ネ 台	1	〃	〃
2033	ヘ ラ	1	〃	〃
2034	〃	1	〃	〃
2035	竹 ク シ	1	〃	〃
2036	コ ネ 碗	1	〃	〃
2037	〃	1	〃	〃
2038	ノ コ ギ リ	1	〃	〃
2039	カ ン ナ	1	〃	〃
2040	細 ヘ ラ	1	〃	〃
2041	〃	1	〃	〃
2042	ヤロウ素型	1	〃	〃
2043	〃	1	〃	〃
2044	ミ ガ キ 板	1	〃	〃
2045	〃	1	〃	〃
2046	〃	1	〃	〃
2047	ハ ケ	1	〃	〃
2048	〃	1	〃	〃
2049	ニ カ ワ	1	〃	〃
2050	朱 粉 容 器	1	〃	〃
2051	道 具 箱	1	〃	〃
2052	碗ハケ入レ (箱)	1	〃	〃
2053	ヤロウ状容器	1	〃	〃
2069	コ ネ 碗	1	〃	〃
2070	ヘ ラ	1	〃	〃
2125	縄 ナ イ 機	1	大和郡山市矢田町	堀口 芳春
2210	三ツ縄アミ機	1	奈良市須川町	辻本 勇
2250	藁 打 チ	1	京都府相楽郡精華町	沢田 林一
2251	縄 ナ イ 機	1	〃	〃
2295	大野ワゲモノ	1	十津川村大野	下谷 貞彦
2300	ワリホウチョウ	1	黒滝村中戸	福田 義一
2301	コワリツチ	1	〃	〃
2302	サ キ ア テ	1	〃	〃
2303	ツ チ	1	黒滝村脇川	辻 一男
2312	セ ン	1	大塔村篠原	西尾 勇夫
2326	割 り ヨ キ	1	天川村塩野	佐古 作美
2327	クサビ (平杓子)	1	〃	〃
2329	ウ マ	1	〃	〃
2330	割 り 台	1	〃	〃
2331	木 ド リ 台	1	〃	〃
2332	サ シ (一尺4寸)	1	〃	〃
2333	〃 (1尺2寸)	1	〃	〃
2334	〃 (8寸)	1	〃	〃
2335	〃 (7寸)	1	〃	〃
2336	〃 (5寸5分)	1	〃	〃
2337	ワ リ ナ タ	1	〃	〃
2338	ツ チ	1	〃	〃
2339	ハラアテのコウ	1	〃	〃
2340	コビキノコ	1	天川村洞川	橋田 閑
2341	底 板	1	〃	〃
2345	ノ コ ギ リ	1	〃	〃
2346	ワリボウチョウ	1	〃	〃
2347	ソコケズリ台	1	〃	〃
2348	オシガンナ	1	〃	〃
2349	キ リ ダ シ	1	〃	〃
2350	コ ガ タ ナ	1	〃	〃
2351	台	1	〃	〃
2352	ソコタ、キ台	1	〃	〃
2353	ワゲモノバサミ	2	〃	〃
2354	ウ マ	1	〃	〃
2355	ワ ゲ モ ノ	1	〃	〃
2356	〃	1	〃	〃
2357	柄	1	〃	〃
2358	〃	1	〃	〃
2359	ワゲモノ見本	1	〃	〃
2360	サ シ	1	下市町下市	池田喜代一
2361	コ ガ タ ナ	1	〃	〃

	2362	コガタナ	1	下市町下市	池田喜代一
	2363	コガタナの刃	1	〃	〃
	2364	キリ	1	〃	〃
	2365	キクギ	1	〃	〃
	2366	三方材料	1	〃	〃
	2367	〃	1	〃	〃
	2368	五寸用カタ	1	〃	〃
	2369	七寸用カタ	1	〃	〃
	2370	〃	1	〃	〃
	2371	〃	1	〃	〃
	2372	八寸用カタ	1	〃	〃
	2373	ケビキ	1	〃	〃
	2374	〃	1	〃	〃
	2375	ケビキの刃	1	〃	〃
	2376	〃	1	〃	〃
	2377	〃	1	〃	〃
	2378	オサエギ	1	〃	〃
	2379	製作工程 (I)	1	〃	〃
	2380	〃 (II)	1	〃	〃
	2381	〃 (III)	1	〃	〃
	2382	ワリツチ	1	野迫川村桧股	杉谷 茂雄
	2383	両口箸	1	〃	〃
	2384	箸材料	1	野迫川村北股	西本 喜作
	2385	箸割り工程材料	1	〃	〃
	2386	ワリ台	1	下市町善城	椿谷 武夫
	2389	ヘギボウチョウ	1	天川村塩野	玉井喜代若
	2391	ウチグリ	1	〃	〃
	2392	セ ン	1	〃	〃
	2394	テッペンカンナ	1	〃	〃
	2397	薬草キザミ	1	〃	〃
	2402	大割りヨキ	1	〃	〃
	2403	箸材料	1	野迫川村桧股	杉谷 茂雄
〔L〕 諸職 L-B	1914	鋸	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1915	〃	1	〃	〃
	1916	〃	1	〃	〃
	1917	〃	1	〃	〃
	1918	〃	1	〃	〃
	1919	〃	1	〃	〃
	1920	〃	1	〃	〃
	1967	チョウナ	1	〃	〃
	2054	ソギ包丁	1	十津川村谷瀬	中村 昭夫
	2055	〃	1	〃	〃
	2056	皮ムキ包丁	1	〃	〃
	2057	セ ン	1	〃	〃
	2058	丸 セ ン	1	〃	〃
	2059	穴 ア ケ	1	〃	〃
	2060	オヒツのクレ (仕上げ)	1	下市町下市田中	松谷 一二三
	2061	ク レ (割りかけ)	1	〃	〃
	2062	オヒツのクレ (原木)	1	〃	〃
	2063	オヒシの半製品 (仮論・締め)	1	〃	〃
	2064	〃 (底板・別付)	1	〃	〃
	2065	削 り 台	1	〃	〃
	2066	木槌 (桶の木取り用)	1	〃	〃
	2067	銅線製タガ	1	〃	〃
	2068	オヒツの完成品	1	〃	〃
	2071	皮ムキ包丁	1	十津川村谷瀬	中村 昭夫
	2072	セ ン	1	〃	〃
	2073	穴 ア ケ	1	〃	〃
	2087	サエヅチ	1	榛原町三宮寺	菊田 正一
	2088	クギヌキ	1	〃	〃
	2089	ハメビキ	1	〃	〃
	2090	ハラアテ	1	〃	〃
	2091	カタ	5	〃	〃
	2092	ウチセン	1	〃	〃
	2093	〃	1	〃	〃
	2094	キ リ	1	〃	〃
	2095	ネズミの尾	1	〃	〃
	2096	キ リ	1	〃	〃
	2097	イレギワ	1	〃	〃
	2098	ソトセン	1	〃	〃
	2099	〃	1	〃	〃
	2100	輪 削 り	1	〃	〃
	2101	ソコマワシ	1	〃	〃
	2102	アナアケ	1	〃	〃
	2103	ツボキリ	1	〃	〃

	2104	ミツメギリ	1	榛原町三宮寺	菊田 正一
	2105	シメギ	2	〃	〃
	2106	コシガネ	1	〃	〃
	2107	ウラタケ	2	〃	〃
	2108	ネズミの尾	1	〃	〃
	2109	ショウジキ	1	〃	〃
	2110	外ガンナ	1	〃	〃
	2111	〃	1	〃	〃
	2112	〃	1	〃	〃
	2113	内ガンナ	1	〃	〃
	2114	〃	1	〃	〃
	2115	〃	1	〃	〃
	2116	打チ込ミ	1	〃	〃
	2117	内セン	1	〃	〃
	2118	クレワリ	1	〃	〃
	2119	〃	1	〃	〃
	2120	〃	1	〃	〃
	2121	内セン	1	〃	〃
	2122	竹クギ	1	〃	〃
	2123	道具箱	1	〃	〃
	2127	カンナ(木地師用)	1	吉野町宮滝	辻本 順三
	2128	〃	1	〃	〃
	2129	〃	1	〃	〃
	2130	〃	1	〃	〃
	2131	〃	1	〃	〃
	2132	〃	1	〃	〃
	2133	〃	1	〃	〃
	2134	ウマ	1	〃	〃
	2135	カタ	2	〃	〃
	2136	木地椀の製品	8	〃	〃
	2137	ツメ	5	〃	〃
	2138	メンマル(ワジマ)製作工程	48	〃	〃
	2139	ブック製作工程	32	〃	〃
	2140	コヨツ製作工程	33	〃	〃
	2141	コヨツのツメ	6	〃	〃
	2142	ブック(仏器)のツメ	5	〃	〃
	2143	三本鋏	1	奈良市西笠鉾町	森村 清司
	2144	壁土スクイ	2	〃	〃
	2145	オタマ	2	〃	〃
	2146	土ヨセ	1	〃	〃
	2147	平鋏	1	〃	〃
	2148	ドリル	1	〃	〃
	2149	ツルハシ(大)	2	〃	〃
	2150	〃(小)	1	〃	〃
	2151	スキ	1	〃	〃
	2152	コテ(柄つき)	1	〃	〃
	2153	ドットコ	3	〃	〃
	2154	コロ	1	〃	〃
	2155	カッシャ	3	〃	〃
	2156	カマ	5	〃	〃
	2157	コテ	13	〃	〃
	2159	土ヨセ	1	〃	〃
	2160	シヤコ	1	〃	〃
	2161	タ、キゴテ	1	〃	〃
	2162	クマデ	1	〃	〃
	2163	ハサミ	1	〃	〃
	2164	オシギリ	1	〃	〃
	2236	トビグチ	1	奈良市宝来町	大西 一夫
	2239	土アゲ	1	〃	〃
	2399	ドリル	1	天川村塩野	玉井喜代若
■〔M〕交通・運輸・通信					
M-B	1921	運搬用カゴ	2	生駒市高山町	有山 忠俊
	1936	オオコ	1	〃	〃
	1974	水桶	1	〃	〃
	2204	綱	1	奈良市須川町	辻本 勇
	2209	石モッコ	8	〃	〃
	2226	カッシャ	1	奈良市宝来町	大西 一夫
	2227	チンチョウ	1	〃	〃
	2229	鹿の角	1	〃	〃
M-C	2343	オイソ	1	天川村洞川	橋田 閑
	2080	牛車	1	大和郡山市野垣内	堀部 忠雄
	2277	大八車	1	田原本町宮古	中島 正雄
M-D	1934	杖	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1958	フウタイ	1	〃	〃
■〔N〕交易					
N-C	1987	秤の重り	1	生駒市高山町	有山 忠俊

	1988	秤の重り	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1989	〃	1	〃	〃
	2233	ハカリ(重り付)	2	奈良市宝来町	大西 一夫
	2285	一升マス	1	橿原市今井二丁目	金田 平一
	2286	一斗マス	1	〃	〃
■〔O〕社会生活					
O-B	2158	下足札	222	奈良市西笹鉾町	森村 清司
	2205	チョウチン・傘	1	奈良市須川町	辻本 勇
	2206	〃	1	〃	〃
	2207	〃	1	〃	〃
O-C	2245	消火ポンプ	1	奈良市宝来町	大西 一夫
O-E	1937	ホッカイの箱	2	生駒市高山町	有山 忠俊
O-F	1899	ホッカイの運搬台	1	〃	〃
	1900	〃	1	〃	〃
	2165	重箱	1	奈良市西笹鉾町	森村 清司
	2218	〃	1	大和郡山市高田口町	平田 甚一郎
	2274	七ツイレコ	1	田原本町宮古	中島 正雄
	2275	本ホッカイ	2	〃	〃
	2276	重ホッカイ	2	〃	〃
	2278	重箱	1	〃	〃
■〔P〕信仰					
P-B	2168	掛軸	1	奈良市西笹鉾町	森村 清司
	2169	〃	1	〃	〃
	2170	〃	1	〃	〃
	2171	〃	1	〃	〃
	2172	〃	1	〃	〃
	2173	〃	1	〃	〃
	2174	〃	1	〃	〃
	2249	庚申塔婆	3	桜井市小夫	馬場井重夫
P-C	2124	ゴサン	13	榛原町長峯	長峯区代表 筒井 安民
P-D	2252	祈禱札	1	桜井市口ノ倉	小西 俊和
	2254	〃	1	〃	〃
	2255	〃	1	〃	〃
	2256	〃	1	〃	〃
	2257	〃	1	〃	〃
	2258	〃	1	〃	〃
	2259	〃	1	〃	〃
	2260	〃	1	〃	〃
	2261	〃	1	〃	〃
	2262	〃	1	〃	〃
	2263	〃	1	〃	〃
	2264	〃	1	〃	〃
	2265	〃	1	〃	〃
	2266	〃	1	〃	〃
	2267	〃	1	〃	〃
	2268	〃	1	〃	〃
	2269	〃	1	〃	〃
	2270	〃	1	〃	〃
	2271	〃	1	〃	〃
	2272	〃	1	〃	〃
P-E	2287	馬図絵馬	1	大和高田市敷島町	松岡弥三郎
	2288	宇治川先陣図絵馬	1	〃	〃
	2289	尉と姫絵馬	1	〃	〃
	2290	〃	1	〃	〃
	2291	〃	1	上牧町新町	山崎 長蔵
	2292	菅原道真図絵馬	1	〃	〃
	2293	先陣争図絵馬	1	〃	〃
	2294	仁田四郎猪退治図絵馬	1	〃	〃
P-G	1935	大峯山用杖	1	生駒市高山町	有山 忠俊
■〔Q〕民俗知識					
Q-A	1954	硯箱	1	生駒市高山町	有山 忠俊
	1959	本	1	〃	〃
	1963	石板	1	〃	〃
	1964	〃	1	〃	〃
Q-D	2212	ゼイチク棒	1	奈良市須川町	辻本 勇
■〔R〕民俗芸能・娯楽・遊戯					
R-C	2020	笛	1	生駒市高山町	有山 忠俊
R-H	2180	ミニチュア カマド	1	田原本町小阪	藤本 佳伸
R-I	2246	花火の筒	3	桜井市滝倉	滝倉区代表 尾上 和史
■〔S〕人の一生					
S-F	1942	結納品	1	生駒市高山町	有山 忠俊
S-K	1931	葬式用具	12	〃	〃
S-L	2021	ゼンダナ	1	〃	〃
■〔T〕年中行事					
T-H	1990	盆トウロウ	1	生駒市高山町	有山 忠俊

副業としての苧織について

徳田 陽子

昔は、農家では、藁細工を農閑期や夜なべ仕事としてすることが多かったが、それを自家用だけでなく副業として行うところもあった。例えば、苧織りは、北葛城郡上牧町新村（現在の新町）、河合町佐味田、磯城郡田原本町伊与戸、桜井市太田などが盛んであった。紡績工場が大和郡山市や大和高田市にできてから、昭和24・5年頃ダンボール箱が普及するまでは、紡績用の梱包に使う苧の需要が多かった。

特に、河合町佐味田は盛んで生業といってよいほどであったので、佐味田の例を報告しようと思う。明治25年ぐらいから紡績用の苧間屋をはじめた上村家では、高田・郡山・大阪市平野・貝塚のユニチカ工場に苧を売っていた。昭和3年頃が最盛期で、家々のカドから道端にかけて、ずらりと苧を干した風景がみられたという。

この苧を使用目的別にみると、紡績用の梱包の苧の種類は次のとおりである。

1. 厚苧：織るとき藁を多く使用
 - (1) 毛付き（耳付き）苧：綿糸梱包用
 - ① 毛（耳）36（サプロク）苧
毛（苧の端の部分）付きの幅3尺（約90cm）、長さ6尺の苧の意。
 - ② 毛 365苧
毛付き幅3尺、長さ6尺5寸
 - ③ 毛37苧
毛付き幅3尺、長さ7尺
 - (2) 毛なし苧：綿布梱包用
2. 薄苧：糸の原料としてアメリカから輸入した糸くず梱包用
苧間屋で人を雇い、苧2枚を縄で縫って袋にす

る。袋にしたものを文庫といい、例えば幅3尺、長さ6尺の場合、36薄苧文庫という。

以上の紡績用の苧のほかに、農用厚苧（靱乾燥用で一般にはアキムシロという）やタマネギ、イモなどを入れるフゴも農家で作った。そのうち、農用厚苧は問屋を通さずに売りに行ったり、フゴは北葛城郡広陵町沢のフゴ問屋に持って行ったりした。

苧織機は、大正10年頃、2人用から1人用になった。自家の藁は正月ぐらいで使いきり、あとは、北葛城郡当麻町竹内、桜井市三輪などで購入したぐらいであるから、他の自家用の藁製品は、購入することが多かった。

しかし現在は、苧織りを全くしていないので藁は畳床や乳牛の飼料として売っているという。

※河合町佐味田の上村良次氏・青木経春氏（共に明治43年生）、小西ハルエ氏（明治42年生）からの聞き取り調査をもとに報告したことを付記し、ご協力に感謝いたします。



▲ムシロ織り

★★★★ お知らせ ★★★★★

民俗博物館の行事予定

☆⁵⁸ 4月7日～9月11日

テーマ展「県指定有形民俗文化財 吉野の山村生産用具」

☆上記のテーマ展は昭和57年度の県指定文化財(1226点)に指定された「吉野の山村生産用具」(指定申請名称)と同名称で有形民俗文化財の指定記念の展示として行ないます。

☆同テーマ展の展示替えのため、⁵⁸ 3月29日から4月6日まで期間テーマ展々室を閉室いたします。

☆5月22日 体験学習講座〈御供餅づくり〉

☆7月30日～7月31日 体験学習講座・特集〈竹カゴづくり〉

※体験学習講座は自由見学出来ますが、材料配布の関係上、参加希望の方は往復ハガキで申し込むようにして下さい。講座の時間はPM1～PM4です。

☆昭和58年6月5日～7月17日 民俗カルチャー講座の〈民俗コースI〉を開講します。

●民俗コースI 〈衣の庶民文化を探る〉

⁵⁸ % 編みと織りの文化を掘る

% 絵巻物にみる着物

% 庶民と着物の接点

% 晴れと褌の着物文化を織る

※上記の講座は募集制になっていますので、希望者は当館へ往復ハガキで申し込んで下さい。

☆予告：民俗カルチャー講座・民俗コースII

（神々の民俗と芸能）は10月16日～11月20日の開講です。

《表紙解説》 弥生時代の農具の一つとして、古くから知られている石包丁は、後世の石鎌や鉄鎌と同様に稲を刈り取る（穂刈り）ときに使われたと考えられている。

■ 編集後記 ■

暖かい正月も、はや彼方へ過ぎ、二月半ばに寒風に見舞われて、寒さを肌に感じながらも三月を迎えた。そして、今、「寒い朝」を感じながら、暖かい小春日和を切望する日々。

この自然の摂理を幾度となく通り抜けてきた今——同じように暖かい日差しを求める。

民俗公園の樹木にも、この摂理を受けてはや10年を迎えるものがある。歳月の中で消え去った樹の妖精もあろう。ロマンの中で生まれロマンの渦に流されたもの。ロマンの渦中で花開こうとしたもの。すべてが自然のなせる業であろうが、そこに、人の業、が組み込まれて文化創造の要が生まれる。人が文化創造の〈要〉となり、かつ人によって、文化の創造性も異なる。また、時代によっても違いを見せる。そこにこそ文化創造があり、それを培ってきた人間の重みがあるのではなかろうか。